

南小たば風通信 2019

令和元年9月24日 第17号

公開研究会の事後研を行います。

明日の研究日は、公開研究会の事後研を行います。公開研当日は、先生方にグループ別の協議の司会等をお願いした関係で本校の事後研を行っていません。そこで、参観した学年ごとに協議を行い、仮説の検証と今後の研究の方向性についてまとめておきたいと思います。

<研究協議の柱>

【討議の柱】 単元計画や本時が仮説を検証できるものとなっているか。

《仮説》○指導事項を明確にし、適切な対話を位置づけることで、子どもたちが課題に対して粘り強く取り組むことができるだろう。

○各単元に、適切な言語活動を設定し、目的意識をもたせることで、「つけさせたい力」が確実に身につくだろう。

<事後研の流れ>

◆15:30~16:20 サブルーム 全体司会：稲船先生 記録：山本

① 授業者から（三上先生→飯高先生→荒谷先生→上野先生） 10分

② 質問（全体で確認したいことなど） 5分

③ グループごとに話し合い 20分

・足りない付箋は貼りながら、_____の方を中心に話し合いを進めてください。

・グループ協議等で話題に出ていたことなどに触れてまとめてもOKです。

・最終的にグループでどんな話し合いがされていたか、5分ほどで話してもらいます。司会の方は話を進めながら、意見をまとめておいてください。よろしくお願いします。

（ピンク→よい点 水色→改善点・改善案）

④ 各グループの発表（5分程度） 2年→4年 10分

⑤ 教頭先生・校長先生より 5分

【グループ】

2年 三上先生 飯高先生 星先生 庄山先生 稲船先生 押見先生
増田先生 教頭先生

4年 荒谷先生 上野先生 齋藤先生 加藤先生 佐藤先生 島村先生
十河先生 牛谷内先生 校長先生 山本

次回研究日は11月6日（水）の板書交流です。高プロの先生方、特別時間割等で忙しい中ですが授業の準備をよろしくお願いいたします。

※裏面に、公開研究会当日のグループ討議、全体交流の内容を載せています。

2年生 グループ別協議 まとめ

<Aグループ>

準備がしっかりとされていたので、導入の段階で児童がやるべきことをよくつかんでいた、という意見が多く出ていた。写真やイラスト、葉の実物などで興味を引き、物語にひきこんで理解させているところがよい、前時までの振り返りが細部までされていた、などよかったという意見が多かった。

「深める」段階でも、書き出しの例示や一人ひとりの記述に対するあたたかい言葉がけがあり、書くことが苦手な児童でも取り組みやすかったのではないかと、褒め方が児童によく伝わっていた、などの意見がよく出ていた。ただ、先生の話す場面がやや多のでは、という意見もあった。もう少し児童の発表や交流が引き出されてもいいのでは、という改善点も出された。

「まとめ」の段階で、「ぼくは、思いつかないからまねしたいと思った。」という児童の発言に、この授業が十分目標達成していると思う、というように、“適切な対話”や“他者とのかわり”、“適切な言語活動”などを通して粘り強く児童が取り組んでいた、という参加者からの肯定的な意見が大部分であった。

<Bグループ>

○想像タイムを設けたのは、よかった。

○指導案の深める2と3のつながりについて

- ・3の児童の反応を求めるのならば、2で「おじいさんの宝物はなんだったのか」と発問ではない言葉が必要なのではないか？ずれを感じる。
- ・「おじいさんの宝物はなんだったのか」と聞くことによって、児童の思考を狭くするように思うが。
- ・「あなたにとっての宝物はなんですか？」と尋ねてみてはどうだろう。
- ・「教材観」によると思う。授業の終わりに、子どもにどう感じてほしいのか？ということことで、授業づくりが変わってくる。
- ・「まとめる」での時間の確保→教師の発言を減らし、児童が発言を多くできるようにした方がよい。

○友達のお気に入りのところを発表する活動について

- ・2年生という発達段階もあるので、書くことによって、時間がかかり、児童の交流が少なくなってしまうので、書かずに教師が交流をさせたほうが良かったのではないかと？

○A・Bの評価について

- ・自分の考えが理由づけられたら、A評価になるのではないかと。

付箋内容

○今日に至るまでの授業の道筋が可視化されていて良い。(授業のゴールが見えている)

○授業以前に学習のスタンダードの徹底がなされている

○先生の言葉づかいがとても丁寧でやさしいので子ども達も安心して授業を受けることができていた。

○思ったことを口にする子どもたちの交通整理をしながら授業のねらいに向かわせていました。

○肯定的な言葉がけ安心して発言できる雰囲気づくり (奥小 林)

●児童の発言に対しての教師の言葉の返し方「どうしてそう思ったの？」と聞き返した方がよいのでは (奥小 林)

○前時までの振り返り手立て 掲示物

○児童のノート指導「先生と同じくらいの速さで」の指導、声かけ

○見通しのもたせ方 単元指導計画などの掲示 机間指導 児童への言葉がけ (奥小 林)

○手順が示され子どもが何をすればよいのか明確であった。

○宝箱に何が入っているか想像する場面で、書けていない子も最後にあたる等、全員が発言できるところがよかったです。

○話がそれないように書き出しをそろえており良い。

○板書計画（貼る場所）までしっかり計画されている。

○そうそうタイム 1分で宝物の中身をそうそうして発表

●指導案 2に書いてある会話の内容を3に書いてある交流の内容のすれ どのような会話を想定していたのか（奥小 林）

●物語のつづきということで文章の叙述に即して自分の考えに結びつけて考えられれば良い。

●友達と交流する場面で他の考えを取り入れて自分の+αするのに・・・単に見せ合うではなく、不思議に思ったことびっくりしたことなどちょっとした視点を設けると良い。

○二人の会話をそうそうしよう 書き出しをそろえてその後の会話を考えている。

●交流の時お互いの声が小さいような気がしました。少人数なので小さい声でも伝わるとは思いますが、どんな場面でも相手にしっかりははっきり伝えられる様になればいいなと思います。

○ふりかえり 友だちの考えを参考にして取り入れたい観点で書いている。

<Cグループ>

僕たちのグループでは、付箋を貼ってもらい授業の各段階で反省を行いました。

「つかむ」の段階では、単元の見通しができていること。めあてを引き出す振り返りができていること。授業者の児童が話しやすい雰囲気を作っているという3点のことから授業のめあてに主体的に取り組んでいたのではないかという意見ができました。

「深める」の段階では、少し無駄が多かったという意見ができました。文章を交流し、その良かった所を紙に書き、再度児童に良かったことを伝えるのは児童の実態を踏まえて難しいのではないかという意見もできました。以上の2つの意見から本時には付箋におもしろかった所を書くことを行い次時に伝え合うことを行ったほうが良いといった助言をいただきました。また、あまり友達の良いところを書けていない評価でいえばCの段階の児童に対してどのような手立てを行うのか分からなかったという意見が出ました。書き出しを統一する工夫や、児童の思考に沿ったワークシートはとても良かったという意見も出ました。

「まとめ」の段階は、時間の関係であまり意見が出ませんでした。

<Dグループ>

つかむ

○挿絵にないところを写真などで補って、作品の奥深さがわかりやすくなっている。

○単元の見通しがもてる環境づくりがされていた。

深める・まとめる

○書き出しをそろえることで、子どもが安心して書き始めることができていた。

●おじいさんの宝物は何だったのかを考えながら…のところが弱かった。

○個への支援があらゆるところで見られていた。

●「よさ」とはなにかを具体的にする必要があったのではないか。交流の視点がぼやけたような感じがする。

●子どもの活動時間が20分しかなく、交流の時間が足りなかった。結果的に3と4が同じようになっていた。

○子どもの書いているものへの適切な指導が参考になった。

○単元指導計画は、全体がよく見え、参考になった。

4年生 グループ別協議 まとめ

<Aグループ>

○ワークシートの構成について…児童が交流するとき話す順番に3段に分かれているため、交流するときにも安心感をもって取り組めたのでよかった。

●交流の仕方について…隣同士のペアで話していたため、児童はただ自分の考えを話すだけで、相手がどう反応をしているのかは確認していなかった。だんだん後半になると同じ話をすることに飽きてきており、作業となってしまうのではないかと。まずは同じ意見同士で交流、その次に対立意見同士で交流すると、相手の意見を聞かなくてはならないという必要感が生まれたのではないかと。

●まとめについて…交流した結果、「同じ場面を書いている人が多かったから」という理由で選んでいたのが指導事項に合っていたのかどうか。つけさせたい力を意識させて、ポップ作りをするために本当に作品のいいところを選ぶとしたら、考えの理由の違いに注目させられるような仕掛けがあるとよかった。

〔相手への伝え方について〕

「○○だと思いました。理由は～だからです。」という型があるのがいいか悪いかという話題になった。決められたことはできるが、少しアレンジされていると対応できないという子が多いため、小学生のうちから決められたことばかりできるというのはいいようで悪いのではないかと。しかし、ある程度の型がないと低位の子たちは何もできなくなってしまうことも考えられる。根拠をもとにしたり、具体的に話したりするためにも、ある程度の型は必要なのではないかという話になった。

<Bグループ>

○良かった点

- ・子どもたちが学習に対してとても意欲的。日常的な指導の積み重ねが感じられた。
- ・ノートの取り方、子どもたちの机上が整理されていた。
- ・ペア交流を2回やった後で、教師が介入、指導があったことにより子どもたちの「話す」「聞く」の意欲が高まった。
- ・振り返りの「交流してみてよかったこと」でメガネの男子(りょうすけくん)が「理由がちがうことがわかった」と発言したこと。授業のねらいが子どもたちに落ちている。

●改善点

- ・「めあて」は「～交流し、～2つ選ぼう」とあるが、その活動を通してどのような力をつけたいのか。
- ・交流場面では読みあう時間が長かったように思う。子ども同士のコミュニケーションの場面がもっと増えると内容等の気づきも増えるように思う。
- ・ふりかえりの理由のときに「同じ人が多くて、少なくて」という理由ではなく、内容面をとりあげるとよかった。
(机間指導、ノート観察では子どもたちはどのように書いていたのか)
- ・上記の場合に、どのような働きかけをしたらよいか。
- ・「理由などがいっしょだった」という数ではなく、「心情面」の発表をとりあげるとよかった。
- ・作者の意図や文章の裏側を、教師が事前に物語を押さえておく必要があるのでは。

※少し話題として出たお話

- ・「戦争」というテーマ。小学校4年生にどこまで読み取らせるのか。10年後のゆみこなどの様子を子どもたち

はどう感じたのか。

→「道徳」ではなく「国語科」なので内容の気持ちに寄り添うではなく、「ねらい」「指導事項」にしぼり教材をつかってどう指導するか重点をおく必要がある。

「ことば」を根拠に深まる読み取りをしている。単元を貫く活動としてはまちがいでない。(長浦課長より)

<Cグループ>

○本時に向けての目標に応じた単元計画がしっかりしているので、よかった。

○学習課題が明確なので、児童がスムーズに学習に向かっていた。

⇒児童の活動時間が増えるので、安心して効率的に学習できている。

○ペア交流について

⇒3分×6人とあるが、事前に活動していたこともあり、低位の児童にとっては、安心できて学習できていた。が、同じ活動の繰り返しだったので、作業的になり過ぎ、深まりがなかったのではないかと感じる。繰り返すのであれば、回数に応じて洗練された発表になっていければよいと思う。説明の仕方に変化を与える、少し活動に変化を与えるなど、より高度なレベルにしていければよい。

○児童が書いたふりかえりの内容について

「みんな同じ考え」「〇〇と書いた人が多かった」などのふりかえりの内容は、学習のねらいと違っていたのではないかと感じる。授業前段で「前時に選んだ場面の中で、1つだけ全員同じ意見があった」という提示があったので、それに流されたのではないかと感じる。(意図があったなら別だが)

○児童が落ち着いて学習していて素晴らしい。

<Dグループ>

○発表の仕方が身につけてよかった。

○交流時の視点をしっかりと持たせてよかった。

●ペアで繰り返し交流が行われていたが、自分の考えに反映されていたのか。

●交流の内容が、「みんなと同じか」「みんなと違うか」だけに終わっていたので、それだけが対話だったのか。比較のレベルが浅かった。

●比較する力の捉え方が違っていた。本来は、相手の考えを知り、よりよい考え方にしないだろうか。理由の中身をもっと交流させる必要があった。

●発表しあう場面も、3分のうち1分しか感想の交流ができていなかったため、短く感じた。感想交流の時間にもう少し時間を割くべきだった。

●教師のリボイスが多く、教師主導でまとめすぎている。子同士の会話を繋げていく必要があった。途中で児童の発言に対する教師のまとめとの間にズレが生じていたところがあった。まとめないで、「ぼくはこう思う」「私はこう思う」「それならこれにしよう」など協働的な学習が生まれる主導の仕方が必要なのではないでしょうか。

●どうしてそう思ったのかを、本文に戻って根拠を捉えて話し合わせる必要があった。

●先に全体で子どもたち同士の作品を読み合ってからふせんを貼り合い、どうしてこの場面や理由にふせんがついたのか、もっとよい理由にするためにはどうしたらよいかを交流させてはどうでしょうか。

●言語活動としてポップを取り入れて、書く活動の負担を減らしたのはよかった。しかし、「みんな同じだからよい」という決め方では、せっかく様々な作品が完成されることが期待されたが、画一的なものになってしまう恐れがあるのではないかと感じた。

令和元年9月6日

令和元年度 南が丘小学校 公開研 全体会記録

記録：佐藤・稲船

○講演 黒田諭氏 要点

- ・指導案の見方のポイント
- ・新学習指導要領改訂のポイントは文科省 HP に QR コードあり。
- ・指導案には指導事項、評価規準に即した内容、文言を。
- ・本時で身に付いた力は使える知識、技能となっているか？
- ・評価…つきたい力に沿った評価規準（文末は〇〇している。）になっているか。
活動評価になってズレが生じていないか。
評価基準を基にした手立てを講じていくことが必要なので、指導事項に即した机間指導、机間支援、支援の手だてを)
本時案の評価…（例）観察、ワークシート→A と B の評価がわかる内容・構造となっているか？ どのように見取るのかを明確に。
- ・校内研修プログラムの活用を。
- ・指導事項に沿った授業づくりを。
1 時間の中でブレない指導、展開を。（揺さぶりの言葉が的確か）
年間指導計画を毎年、見直しているか。（改善点の朱書き、付け足し等）
- ・地域間で小中高がどのような学びをしているかを共通認識し、年間指導計画の改善を。
- ・児童生徒の実態を踏まえた授業か。
→指導者の目線が児童生徒を向いた授業が進められているか？

○研究協議

2 年【授業者から】

三上先生

- ・場面の様子、登場人物の言動をふまえて、読むことを指導事項にした。
- ・想像力に学習を進めてくることができた。ダウトを探せ
- ・朝読書に関連図書を読んできた。効果あり。
- ・日常会話でも想像力豊かな単元の話が出てきた。
- ・子どもたちの目がキラキラなる言語活動を設定できたと思う。
- ・振り返りの言葉をどう評価につなげていくか。

飯高先生

- ・特支…個別の準備をしてきた。友達とのコミュニケーションをスムーズになるよう対策。
交流する意見の選定をすればよかった。

4 年【授業者から】

荒谷先生

- ・感想文は苦手、校内の実態に応じてポップづくりにした。
- ・テーマに沿って、授業を進めていき、言語活動を設定した。

- ペアで確実に話す場を設けて、繰り返すことで自信をつけさせたかった。
- 交流の良かったところを考えてもらいたかったが、声掛けが弱かった。

上野先生

- 前時の様子…教科書をじっくり読みこみ、教科書とワークシートを使った学習。活動事項が明確だと、時間内で自分の柱に沿って一生懸命学習していた。苦手な子も充実感があったように見えた。

○グループ交流(メモ程度です。詳しくは各担当者に書いていただいた記録を参考にして下さい。)

- 2年Aグループ
 深める→言葉かけが優しい。ワークシート、書き出しの統一
 教師の言葉が多く、児童が少ない。
 自分の思いを書く難しさ
- 2年Bグループ
 粘り強く取り組むために想像させる時間があってよかった。
 おじいさんの宝物は何なのか？でおじいさん目線に偏ったのではないか？
- 2年Cグループ
 つかむ、深める段階はよかった。
- 2年Dグループ
 関心意欲の高まりが粘り強く取り組むことにつながった。
 児童の活動20分だった。少ないのでは？
- 4年Aグループ
 全時に書いていたワークシート同じ意見を書いていた人が沢山いたからという理由で選んでいたことが、指導事項にあっていたのか？
 相手への伝え方について型があったほうがよかったのか、なかった方がよかったのか。
- 4年Bグループ
 つけたい力を明確にするというよりも、活動が中心になっているのではないか？
 選んだ理由について、もう少し心情面とか心の面とか内容を取り上げてほしかったという意見をいただいた
 学習に向かう姿勢、ノートの取り方、机の上の整理がされていた。
 違うところがわかったという感想がよかった。
- 4年Cグループ
 何のために読めばよいのかということが明確だったために、授業の流れがスムーズだった。
 教師側の指示が減らせるので子供の活動時間が確保される。
 複数回同じようなことを繰り返していたので、作業的になりすぎて深まりがなかったのではないか。
 繰り返すことで低位の子は救えるのだが、深まりというところが課題なのではないか。
 説明の変化についてペアをつくっていたが、言葉を繰り返すことで変化が見受けられなかった
 ので、児童の成長がみられるとよかったです。

交流した時に目的を持たせるとすることが大事である。振り返りにねらいと違うことが児童から出てきていたので、そこに向けて授業を組み立てたり、教師が投げかけたりすることが必要なのではないか。

・ 4年Dグループ

説明の変化についてペアで交流は行っていたが、自分の考えに反映されていたのか？

例えば全体で見合ってから付箋を張るという方法もあるのではないか。

その中から話しを進めさせるなどのアイデアがあるのではないか。

同じか違うかだけで、最後がおわってしまっている感じがしたので、対話としては、不十分。

子供たち同士の言葉を拾っていて敦賀ドルとするという活動方がよかった。

【指導助言】

松永祐子様（2年授業）

- ・ 導入・・・意欲的。旅の様子の振り返りの様子が、活動が児童が本当に楽しそうだった。
- ・ 言語活動…これまでの学習をもとに、自分の考えを書いていた。より深まりがある考えが出てくれば、今までの叙述が活かされたことになるのではないか。
- ・ 交流 振り返り
いいところって何？ ふりかえりの内容が指導事項に沿った内容が少なかった。より具体的な言葉を。

齋藤真寛様（4年授業）

- ・ 立派に集中していた。日常の授業の成果。いつもと違う環境の中でよく頑張っていた。
- ・ 目指す指導事項に沿った交流になっていなかった。ポップを作るためのよりよい読みになるための交流になればよい。深まりの面で手立てが考えられる。
- ・ 言葉による見方、考え方をしっかり育てて、読む、聞く、話す、書くにつなげていく。
- ・ 考えの違いは、教科書に戻って、教科書の言葉を使って根拠をもたせることで叙述について気付かせていく手立ても考えられる。
- ・ 言葉に注目して国語の授業を進めてほしい。